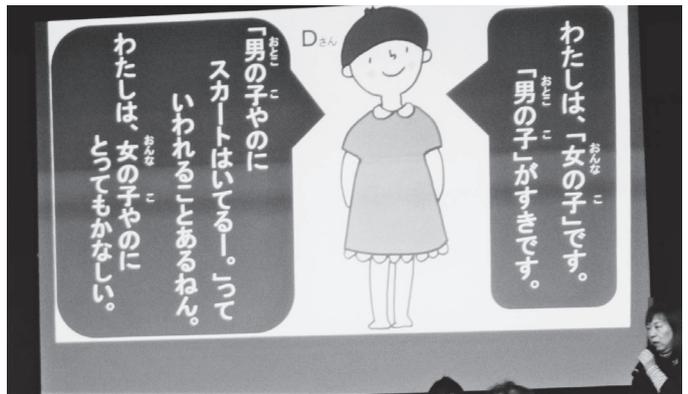




人権問題講演会で

学びました！

12月に開催した本折隣保館人権問題講演会では、「どんな性の在り方も排除されない園・学校・職場・地域とは？」子どもたちの出会いからみてきたことと題して、にじいろニースの田中一步さん、近藤孝子さんからお話を聞きました。



田中さんは被差別部落出身の両親に女の子として生まれ育てられました。両親や地域の人、そして学校教育の中でも部落差別のおかしさを教えられながら育ちました。だからこそ、自分の地域を好きで育つことができ、大人が自分のことを考えてくれていると実感しながら育ったそうです。

そんな中でも、どうしても体の悩みは言えなかったそう

です。「何でこの体なんやろう。」「なんでこの名前なんだろう。」「なんで女の子を好きになるんだらう。」同じ悩み、秘密を抱えている人に会ったこともない、授業でも習わない。「おかしいのは自分一人だ。」と悩んだそうです。保育士として働き始め、近藤さんから子どもの人権を大切にしたい保育を学び、その近藤さんに自分の秘密や悩みを打ち明けたそうです。



いぶちちゃん

話を聞いてくれた近藤さんに「ひとりぼっちでしんどかったな。」と言われ、当たり前のように自分の気持ちにうそをつけて生きてきたしんどさに気づいたそうです。

そのような経験から、田中さんはどの場所でも自分らしく生きたいと思うようになったそうです。そして、子ども

たちがひとりぼっちで悩まない為に、また、社会の中にある誰かを排除する構造を変えていきたいと、保育園や学校で、性が多様であることを伝えながら、「一人としておかしいと排除されたり否定されたりしていい人なんていないんだよ。」「自分でいいんだよ。」「子どもたちに伝えていきます。」

その想いが届く、心温かい素敵なお話でした。

第47回部落解放智頭町 研究集会のおしらせ

日時 2月23日(日)

午後1時～4時30分

場所 智頭町総合センター
大集会室 他

内容

演題 「部落差別意識の現状
と啓発の意識の課題」

講師

一般社団法人
部落解放・人権研究所
事務局長 棚田 洋平さん